

編集後記

◆日本政府は、日本の企業とともに、厚顔無恥にも、原発事故被害者への謝罪も補償も、責任の所在もないまま原発を世界各地に輸出しようとしている。彼らの目的は明らかで原発の建設の受注による莫大な利益を得たいからだ。原発事故被害者や市民らへの思いはひとかけらもない。原発を自前で開発し保有するインドとは、軍事利用はしないとインド政府の言を建前に原子力協定を結んだ。インドは、日本との協力により、民事には日本の技術を使い、原発には自国の原子力技術を使うことで、核開発がさらにし易くなるという指

摘もある。

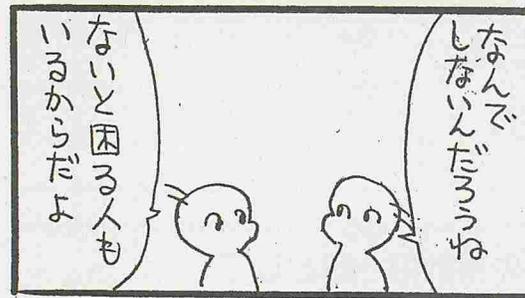
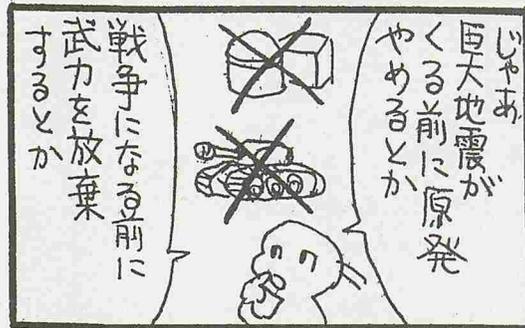
(有馬保彦)

◆7月12日、立教大学の強制社会研究センター主催の鹿野政直さん講演会「民間学再考——鶴見良行に寄せて」を聞きに行った。ちょうど5歳ほど年長にあたる良行さんの、ただし、ベ平連後のアジア学の実践と方法についての説得力豊かなお話で、大きな感銘を受けた。

(高橋武智)

◆今号は編集担当を外れたとはいえ、校正作業のため連日顔を出した参院選前日の事務所での話題はやはり選挙。帰宅すると娘と妻が二人で選挙公報を見ている。普段は政治とは全く無縁の生活を送っている娘が母親に熱心に勧めているのは、なんと比例区も選挙区も多くの意中の政党の候補者。娘が突然ほくの方を振り向いて「パパは誰に入れるつも

り!」。一瞬ためらって「投票の秘密は親子と言えども申し上げかねます」。 (野澤信一) ◆6月にソウルに遊びに行つて、明洞(ミョンドン)の劇場で素晴らしい見世物を見ました。あるレストランの炊事場を舞台に、5人のコックが鍋、フライパン、包丁、皿をはじめあらゆる道具を駆使して2時間にわたり繰り広げるアクロバットの迫力は、言葉では説明できません。道具は韓国伝来のサムルノリのリズムに乗って楽器となり、切り刻まれた野菜の破片でたちまち舞台は埋まり、その切れ端が客席に飛んでくるのです。97年に始まったこの「ナンタ」シヨウは、これまでに45カ国、282都市で上演されたそうですから、ご覧になった方もおられるでしょうが、未見の方には、ぜひお勧めです。(本野義雄)



2013.6.8.11 PM *

- 編集委員
阿部めぐみ
天野恵一
有馬保彦 (本号担当)
杉内蘭子
高橋武智
對馬芳
西田和子
野澤信一
本野義雄
諸橋泰樹
吉川勇一
吉田和雄